

2010年1月8日

大阪産業大学附属中学校

平成20年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属中学校
学校関係者評価WG

評価と提言

1, 平成20年度授業アンケートおよび学校教育自己評価について

教科担当者ごとに行った授業アンケートの結果は、本校生徒が「授業をどのようにとらえているのか」をよく表しているものになっていると判断できます。教科担当者ごとのアンケート結果を担当者本人へ返すことにより、教員自身の研鑽の糧となるものと判断しています。

中学校では公開授業などを行っており、保護者が参観し意見や改善要求を行うことができる点は評価できることと考えられる。さらに高校教員および学校評価関係者(大阪産業大学教授)が公開授業を参観することで情報交換を行うことが有意義であると思われる。

2, 学校教育への提言

A, 近隣地域住民からの提言

近年、登下校のマナーには一定の改善が見られたが、今後とも登下校時に飲食物ゴミの放置などが無いように指導を要請された。

B, 保護者からの提言

高校進学など進路指導、イジメ防止のための人権教育および生徒指導は評価できる。

クラブ活動の活性化が不十分ではないかと思える。

C, 大阪産業大学関係者からの提言

授業評価からも伺える「日常的な学習習慣の不足」が高校、大学でも継続すると思えるため、中学で基本的な学習習慣を定着させるよう求める。